

## 「中延商店街見学会報告」

豊島区中小企業診断士会 井手上 悟

2011年10月29日(土)、豊島区中小企業診断士会恒例の秋の見学会を開催、今回は平成18年に中小企業庁の「がんばる商店街77選」のにぎわいあふれる商店街として紹介されている中延商店街を見学、鶴田副理事長より事業活動についてお話を伺った。

### ●中延商店街概要

中延商店街は東急池上線「荏原中延」駅から東急大井町線・都営浅草線「中延」駅に延びる330メートルの商店街で、普通の駅前商店街のように駅から遠くなると寂しくなるような環境には無い。約128店舗が加盟し、1店舗あたりの間口は2軒～2軒半と小規模な小売店が多い。近隣商店街には全国で有名な武蔵小山商店街、戸越銀座商店街が隣接しており競合も激しい。そのため、常に何かやっていないと埋没するという危機意識を持って地域べったりで活動をされている。

### ●中延ねぶた祭り

商店街の元気がなくなってきたことに端を発して考えられた。東北出身者が多い地区で江戸の祭りをして参加者が少なかった時に、区の担当者より福島県長沼町の見学を薦められた際にねぶたをやっており自分たちでもできるのではと実行。ねぶたも自分達で試行錯誤しながら作成する中、毎日見に来る人がいて、その方が青森県観光協会副会長であった。以来20年の交流となっている。当初は、夜の祭りのため、集客力は上がるものの店主が借り出され、接客できずに売上に結びつかなかった。そこで、グループ毎に10会場で飲食、物販と目玉を出したり津軽三味線、煎餅汁やB級グルメ等の販売で、昼のイベント実行し、来街者が1日中滞留できる仕組みで売上向上を図っている。



2011年9月17日開催された“中延ねぶた祭り”の“本格手作りねぶた”

毎月、何らかのイベントを開催されており、商店街事務所では「なかのぶジャズフェスティバル」参加者が練習できるスペースを設けたり、中延寄席として落語会を開催したり、駅弁大会などもあり商店街の弁当屋さんも地方の駅弁販売や自分で考案した究極の駅弁などの販売で盛り上がりを見せています。

### ●街のコンシェルジュ

商店街が抱える深刻な「高齢化」への対策として進められた事業で、高齢者に生活に困ったことの相談を受けるサービスで、電球の取替えやペンキ塗りなど特技を持つ人が有料でサービスを行う仕組みです。地元の高齢者の年金が9億円ほどもありその2割を商店街に落ちる工夫として「目の前の困ったこと」を何とかしようとして始めました。「助ける人」「助けられる人」共に登録制となっており、最低料金は1時間800円から、高度で複雑な内容の場合は両者の話し合いで料金を決定する。800円のうち300円が事務経費として事務局に入り、500円分は品川区の共通商品券で「助ける人」に支払われます。この事業により、これまで無かったコミュニケーションが生まれるようになった。その事業からのヒントで、高齢者が集まれる事業の発見にもつながり「街中サロン」や食べ歩きツアーへも発展しています。

将来に目を移すと、現在の高齢者とは異なる、次世代（団塊の世代）の取り込みの必要性を感じ、「50+中高年にやさしい商店街～一店逸品事業」に取り組まれている。これは50歳以上を狙った商品開発を各商店で行うというものです。その取り組みの中から「中延ミツバチプロジェクト」が進行している。事務局の3階でミツバチを飼い、その蜜を希望する商店に販売、「中延産蜂蜜」を使用した商品開発したベーカリーや菓子店などが誕生している。

「個店が光れば商店街も輝く」の言葉を実践されている商店街でした。

